

MRI 検査における造影剤使用に関する説明書

造影剤を使った検査を受けられる方に、造影剤検査のご説明いたします。
全身状態や検査の内容により、検査担当医の判断で造影剤を使用しない場合もあります。

《MRI 用造影剤について》

1. 造影剤は、診断しやすくするために血流の豊富な部分を白く表現して情報量を増やす目的で使用します。さらに、血管や臓器およびその周辺の構造をわかりやすくなり、血管や臓器の血流状態、病気の有無や性質・範囲など、診断を行う上で非常に重要な情報が得られます。
2. 造影剤には、ガドリニウム製剤と肝臓用鉄製剤の2種類があります。通常使用する製剤は、「ガドリニウム製剤」です。肝臓の検査では病気の種類に応じて「肝臓用ガドリニウム製剤」や「肝臓用鉄製剤」を使用します。腎機能が正常であれば、通常2時間以内に約60%が、24時間後にはほぼ全量が、尿中に排泄されます。
3. 喘息で治療中、妊娠中、以前にMRI用造影剤で重篤な副作用があった方には原則として造影剤は使用しません。「ガドリニウム製剤」では重い腎臓の病気がある場合、腎性全身性線維症（NSF）と呼ばれる病変が生じることがあります（腎不全症例の3-5%）。原則として腎不全の方には造影剤は使用しません。
4. 造影剤は、基本的には安全な薬剤ですが、下記のような副作用が生じることもあります。副作用は予測が困難で、以前に造影剤で副作用の無かった方でも生じることがあります。しかし、副作用が生じる可能性が高い病気や体質がないか、前もって確認することで安全性を高めることができますので、問診の質問にお答え下さい。

《副作用について》

1.軽い副作用：「ガドリニウム製剤（肝臓用も含む）」では、じんましん、発赤、下痢、はきけ、頭痛、気分不快感など。「肝臓用鉄製剤」では背部痛、腰痛、熱感、発疹、悪感、頭痛、鼻出血など。これらの副作用は0.5~1%未満の頻度で起こりますが、通常は特に治療を必要とせずに関もなく治まります。

2.重篤な副作用：「ガドリニウム製剤（肝臓用も含む）」および「肝臓用鉄製剤」で、約0.01%以下の低い頻度ですが、血圧低下、呼吸困難、痙攣発作などの重篤な副作用も起こり得ることが報告されています。こうした副作用は通常、治療が必要で入院を要することもあります。当院では速やかに対応できるように万全の体制を整えて検査を行っています。

3.その他：造影剤を血管内に注入する時に、血管外に漏れることがあります。針の刺さっている部位の腫れや痛みを伴うことがあります。通常は時間がたてば吸収されるので心配ありません。また、検査終了後は、造影剤の排泄のため、水分を十分お取り下さい。

《食事制限について》

造影剤使用に際して**食事制限**などが必要な場合があります。検査案内票の指示に従って下さい。